

会員数(53・11現在)

逗子地区 125名

葉山地区 214名

大船地区 73名

合計 412名

吟道月報

日本詩吟学院 岳風会 認可

神奈川 碩心会 発行

53・11月

第76号

発行 者

岳風 風
岸集 愛梁
根 岸 編 村 元
中 秋

想いの詩

逗子A支部

村田

静風

「人生夢の如し」とか、昭和十
四年一月新婚十日目で神戸港を出
発して波静かな瀬戸内海を渡り玄
海灘の荒波を一路上海へ向いまし
た。

五年間の上海での楽しい想い出
の一言に「蘇州、杭州に旅をした事
がありました。もう四十年前の事と
て記憶もさだかではありませんが
西湖を小舟で渡り、寒山寺に行き
ました。山門にかかげられた「寒
山寺」と書かれた大きな金文字は
今も目の底に々きついています。
それに「月落ち鳥啼いて」の書を
ぶらさげた店が沢山あった事を思
ひ出します。
その後詩吟を習う機会に恵まれ

大声をはりあげて「日落ち鳥啼いて
」と練習をしていると「寒山寺へ行
った時そんな感じだったなあ」とそ
ばでつぶやく様に言って何度も聞い
てくれた人は今は亡く「しっかりが
んばれよ」と声援を送ってくれて
いるように思い「風橋夜泊」は思い
出深い詩となりました。
詩を吟じていると昔漢文の時間
になやまされた詩が出てきてハツと思
う時があります。今の人は漢文を
習う事がないのかあまり漢詩には縁
がないようですが是非若い人達に漢詩の
良さを知ってほしいものと思えます。
風景詩の情景といい、国を思う心
又は愛情の表現といい、そのものず
ばりではなく心の奥床しさを感ずる

事ができて味えは味あう程深いものを感じます。幸い若い人達が集まってくれましたので一請に勉強を始めました。今後共よろしく御指導下さいますようお願いいたします。

建設支部の鈴木美山さんより次の詩について、読み方、符付けをお分りの方に教えていただきたいとの投稿がありましたので左に記載いたします。

孤剣欲窮兵要地 凄風帶雨入山深
 乃木希典作

忽見巨殺簪倚峽 佛意天然是我心

③前述の詩は乃木大将が身延山に詣でた折に詠まれたそうである。尚詳細について碑に刻まれてあるそうです。知りたいた方は編集部に鈴木さんの原稿がありますので為念。

横浜丘鶴会に於ける合吟コンクールに碩心会代表(堀内B組)は十位に入賞されました。

碩心会 理事会開催

十一月十八日(金)七時より板山会館に於て行われ、次の事項がきまりました。

(1) 納吟会 次のような日程で行われます。

- 逗子 A 12/4(金) 逗子 B 12/3(木) 桜 A 12/4(金)
- 桜 B 12/3(木) 沼 B 12/9(水) 建設 12/9(水)
- 中根 12/20(水) 銀詠 12/18(金)

- 堀 A B C D E 12/7(日) 一色 A B C 12/18(金)
- 下山 12/12(水) 吟甫 12/4(木) 諏訪 12/3(木)
- 上山 12/16(日) 滝坂 12/13(水) 元町 12/12(水)
- 木下 12/20(水) 風早 12/20(水)
- 船 A 12/6(金) 船 B 12/8(日) 船 C 12/4(金)
- 戸塚 12/6(金) 松和 12/15(金)

(2) 五十四年度初吟会 十一月二十一日(日) 午後七時より
 とき。一月十四日(日) 午前十時より
 ところ。逗子京急ビーチエントランスホール

会費。二千五百円(メ切手二月二十五日)
 各支部会員数の六割以上の出席を確保して
 ほしとの企画部からの要望あり。

(ハ) 師範 準師範 認許をるて

師範 下條亮伍

準師範 杉山雪風・広瀬翔風・石渡桂風

松野春風・佐藤誓風

(ニ) 租宗範墓参吟行会の予定

希望者多数により来々秋頃実施したいと

希望者多数により来々秋頃実施したいと

其の他、各支部の理事定数等について話し合

ひがありました。最終決定をみまかせんでし

たので決まりましたらお知らせいたします。

最近感した事

詩吟愛好家

吟道というのは単に詩吟が上手になる為の
修業ではない。心身共に健全な人格向上に向
って努力するところに意義がある。入門した
時に先生が言われた言葉が思い出される。好
い吟友にめぐりあひ、楽しかけた月日があつ
といふまに三年余り立ちまひた。三年の歩
度々壁に当りますが、それを破つて進む進
歩があるゆゑです。決して一歩々々一語に

進みませよう、といつても励ましてくれる先生
に私は心から感謝しております。

ところが最近時とすると先生方に対する批
判の声を聞くことがあります。吟歴が長いと
いう事で私達に指導といふ重荷を背負うてい
られる事にもつと心すべきではないでしょう
か。たしかに先生にも何がと欠点(お許し下さい)
はあるかもしれませんが、然し先生としてプロ
ではありませんが、私の知る限り非常な犠牲を
払っていられるようです。生徒は寒いから、
今日は雨だからと休めますが先生にはそれも
できないことでしょう。先生は、
心な少ない会費で健康を伴う高尚な趣味
は他に見当りませんが、この道を志した以上
もつと和を尊重して、お互いに初心にかえり
仲よく楽しく勉強したいものと思ひます。
会名を訂正し、
⑤沼田流の電話番号が三六六を三六四に訂正
本体会)高尾見台支部(指導)沼田光岳

わが葉山

明治九年東京医学校（東大医学部）の招聘によつて来日したベルツ博士は明治二十年代にはじめて葉山堀内（現コト葉山）に別荘を建て、避暑の地として葉山を内外に推奨し、又当時イタリヤ公使であつたマルチーノ公使も冬暖夏涼の保養地として素晴らしきことをひろめた。特にベルツ博士は日本を去るまで皇室の侍医として奉職していた関係で英昭皇太后はじめ宮家の方々の御静養に葉山をすすめられ、後明治天皇に御用邸建設を建言、明治二十七年一月竣工、葉山御用邸と命名されました。御用邸の建設はそれまで一寒村にすぎなかつた葉山の名を全国津々浦々にひろめました。又御用邸をこよなく愛された大正天皇はこの地で崩御され、今上陛下はこの御用邸に於て踐祥の儀を挙げられ皇位を継承されました。長い歴史の中でこのように一地方で町で踐祥の儀が行われた事は異例のことであり、このような歴史的事実を明白にするため、去る五

十一年十二月三日の佳き日に生きる明治天皇御製と昭憲皇太后御歌の刻まれた碑、並びに今上踐祥五十年記念碑の除幕式が行われ、私達碩心会の葉山代表は碑前に於て朗詠を行い、その感謝は今尚忘れません。尚同じ日葉山在住の詩人堀口大学の歌の碑も除幕され、さきに紹介しましたベルツ博士、マルチーノ公使の顕彰碑と並んで相模湾を一望に見渡す森戸神社に建立されております。紙面を埋める為掲載乞御許を……愛風

明治天皇御製、海辺の雪ははれにけり
波のうへに富士のね見えて吳竹のはやまの浦の雪ははれにけり
昭憲皇太后御歌、里の神楽

吳竹の葉山の宮にきこゆるや森戸あたりのかぐらなるらむ

★新人 △△

(滝坂支部) 河内 員郎 葉山町堀内二七七二
電話 0468151065
() 河内トヨ子 住、電、右に同じ
() 大水 妙子 葉山町一色 六八一
電話 0468175148
★退 △△
(大那支部) 三岩サツキ
() 山口 竹山